

# 法テラス東京の多重債務事件 とギャンブル依存症

法テラス東京 副所長 小林 剛(弁護士)

# 法テラス東京での取り組み

## 情報提供

利用者の問い合わせに対する情報提供  
解決への道案内

## 民事法律扶助での多重債務事件

相談受付の場面

相談実施・受任の場面では・・・？

# 多重債務事件の占める割合

法テラス東京：令和元年度件数

法律相談 3万8807件中

多重債務 1万3858件 (35.7%)

代理援助 1万5136件中

多重債務 8227件 (54.4%)

書類作成援助 118件中

多重債務 86件 (72.9%)

「多重債務」といっても、至る原因はさまざま  
「遊興・ギャンブル」という類型では・・・

# 受け付けたあと

相談実施・案件処理は担当弁護士・司法書士が担う

法テラスという組織の位置づけ

運用は弁護士・隣接法律専門職の職務特性に配慮

法律事務はそれぞれ独立した職務

法律事務は解決する時期（終期）あり

法律問題の解決を超えて、背景事情の改善までつなげるハードル

# ギャンブル依存が背景にあると 思われる経験事例

## 事例①（刑事事件・空き巣）

50代女性、短大卒、夫あり（高齢）、子ども2人（成人）

子どもが独立してからパチンコ、生活保護受給

空き巣の繰り返し服役を重ねる、社会復帰の期間は半年～3年おき

止められるという自信、抗不安薬の服用（侵入盗で物を見つける楽しさ？）

過去の弁護士から関係機関との連携の提案はなさそう

家族の支援する基盤も弱い

## 事例②（自己破産）

30代男性、大卒、妻あり、子ども1人

大学時代から競馬、サラリーマン、仕事内容や人間関係で回数・金額が増える

専用口座を利用したネット投票を始めてさらに拡大

カードローン・クレジット枠の現金化、支払いに行き詰まり妻に告白

依存の自覚・関係機関の知識はあったが、負債額を取り返せるという思いあり

関係機関の利用経験なし、仕事の充実・金銭管理で現在も良好

# ギャンブル依存が背景にあると 思われる経験事例

比べてみて・・・

本人の自覚と意欲

支援者(家族)の存在と余力

前提として、本人・支援者の知識、連携先の情報提供

# 課題として考えられること

本人や周囲が気付いていない事例へ関わるきっかけ・継続的なつながりをどう実現するか？

事件処理する法律専門職の知識と熱意（法律問題の解決だけでなく、背景事情の改善まで。社会資源を利用した継続的な関与への引継ぎ）

各法律専門職の所属団体での周知や研修、関係機関との連携（医療機関、自助グループ、行政機関等）